

IV 従業員調査結果

1 あなたご自身について

【問1】

(ア) 性別

性別は、「男性」が約5割、「女性」が約4割となっている。

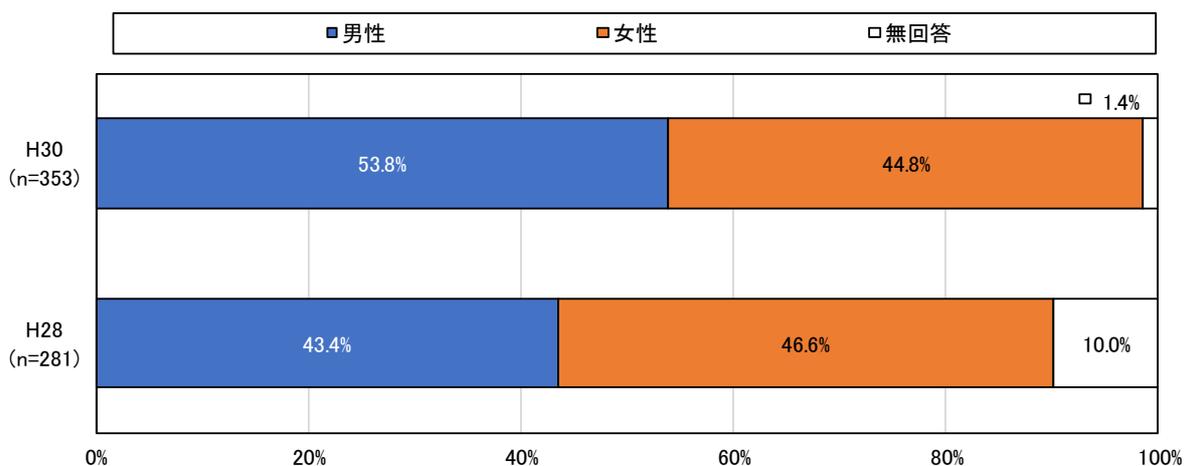


図 74 性別

(イ) 年齢

年齢は、「40代」が約3割で最も高く、「20代」「30代」「50代」がそれぞれ約2割となっている。

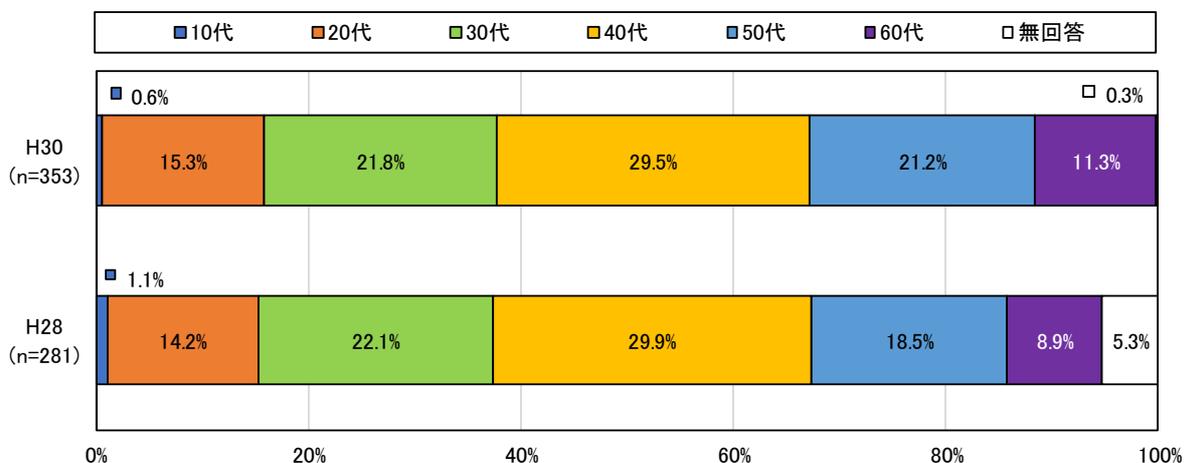


図 75 年齢

IV 従業員調査結果

(ウ) 世帯構成

世帯構成は、「2世代（あなたと子供）」が約4割で最も高く、次いで「単身」「夫婦のみ」となっている。

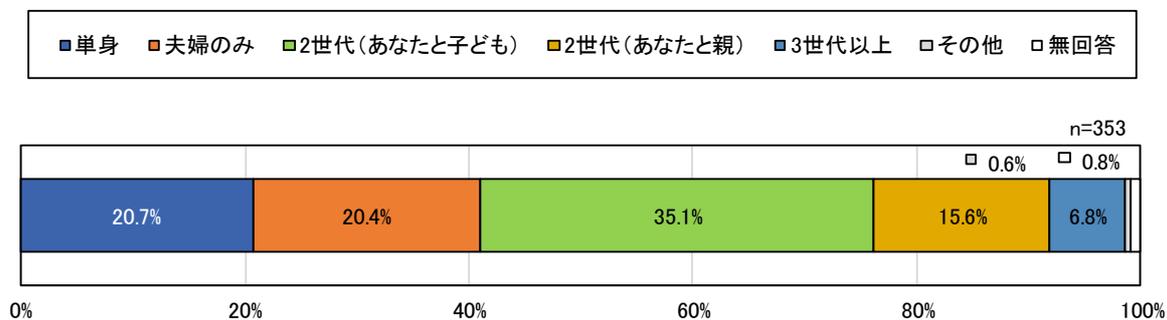


図 76 世帯構成

●「その他」の記述内容

兄妹、グループホーム

(エ) 扶養の状況

扶養の状況は、「扶養家族がない」が約6割を占めている。

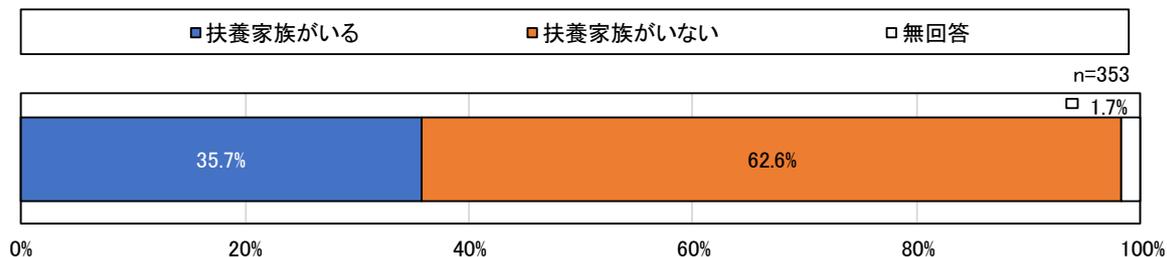


図 77 扶養の状況

(オ) 職種

職種は、「事務系」が約4割で最も高く、次いで「労務系」「技術系」となっている。

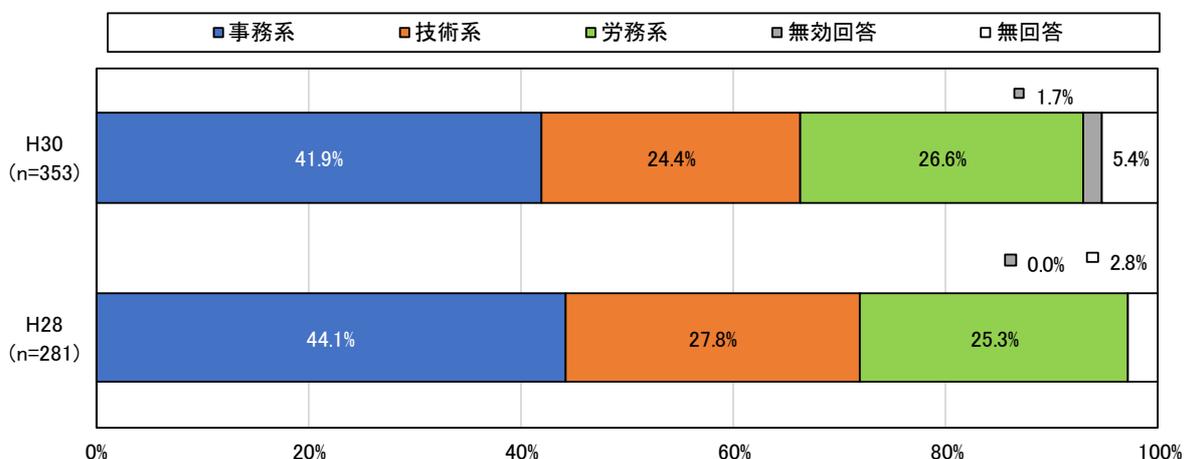


図 78 職種

(カ) 就業形態

就業形態は、「常用従業員」が約8割を占めている。

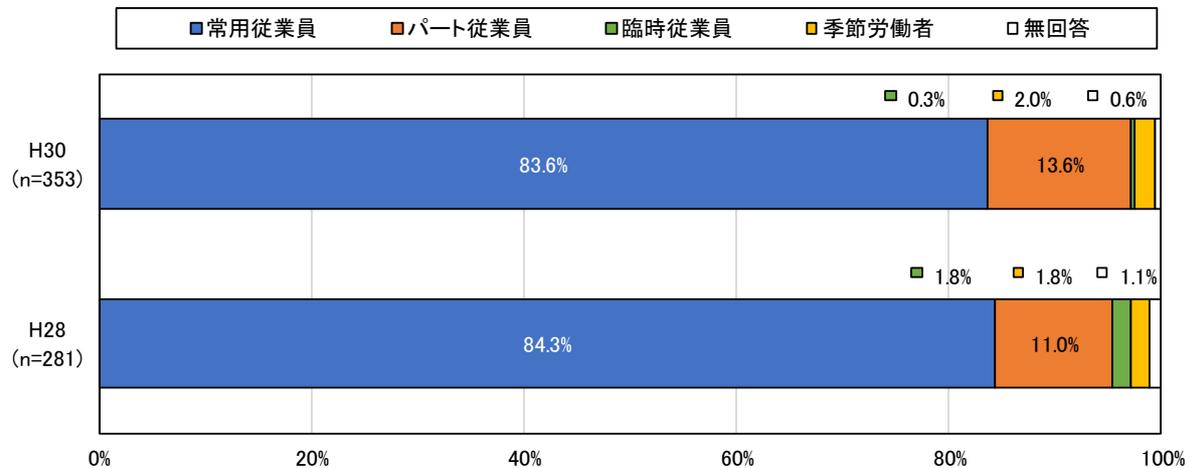


図 79 就業形態

(キ) 勤続年数

勤続年数は、「10年以上20年未満」が約3割で最も高く、次いで「1年以上5年未満」「5年以上10年未満」がそれぞれ約2割となっている。

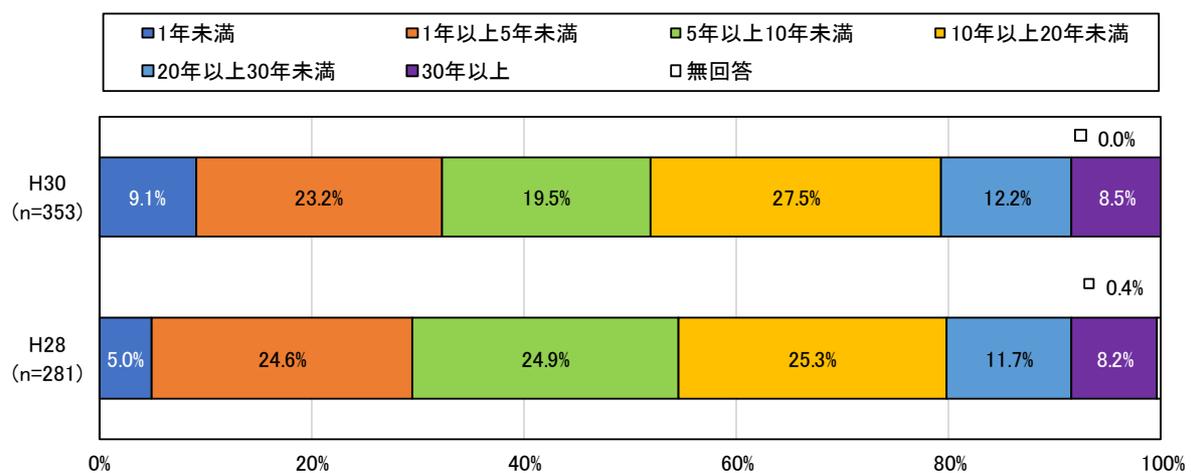


図 80 勤続年数

※(ク)～(シ)は(キ)勤続年数で「1年未満」と答えた方が回答

(ク) 出身地

出身地は、「栗山町」が約4割で最も高く、次いで「札幌市」「岩見沢市」となっている。

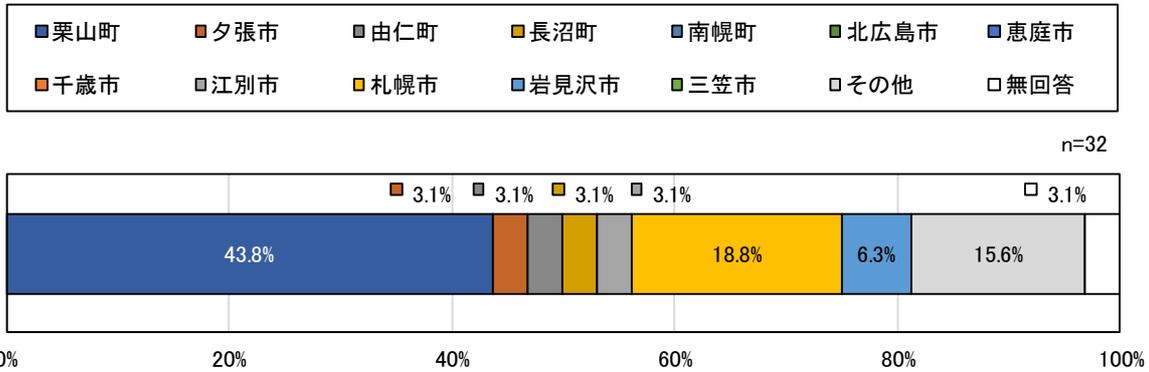


図 81 出身地

●「その他」の記述内容

小樽市、秋田県、北見市、愛知県

(ケ) 居住地

居住地は、「現在の事業所で働く前から栗山町に住んでいる」が5割で最も高く、次いで「現在の事業所で働く前も現在も他の市町村に住んでいる」となっている。

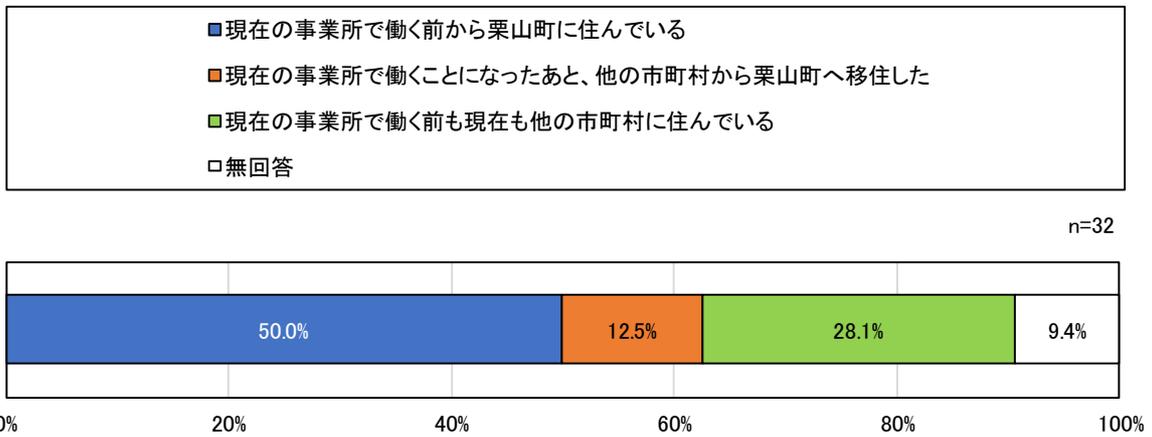


図 82 居住地

●記述内容 ※ () 内は 2 件以上の回答者数

回答項目	内容
現在の事業所で働くことになったあと、他の市町村から栗山町へ移住した	【以前暮らしていた市町村】 札幌市、岩見沢市、江別市
現在の事業所で働く前も現在も他の市町村に住んでいる	【現在暮らしている市町村】 札幌市 (2)、岩見沢市 (2)、江別市、北広島市、南幌町、長沼町、由仁町

(コ) 学歴

学歴は、「高卒」が約4割で最も高く、次いで、「短大・専門卒」「大学・大学院卒」となっている。

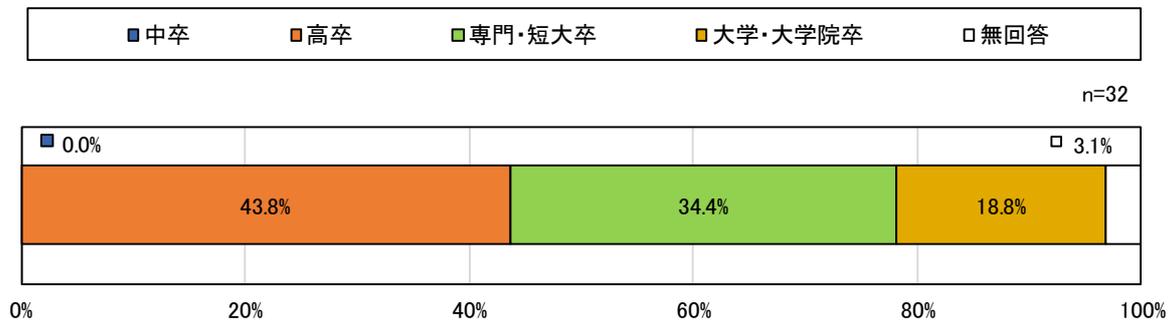


図 83 学歴

(サ) 奨学金の受給有無

奨学金は、「受給していない」が約8割を占めている。

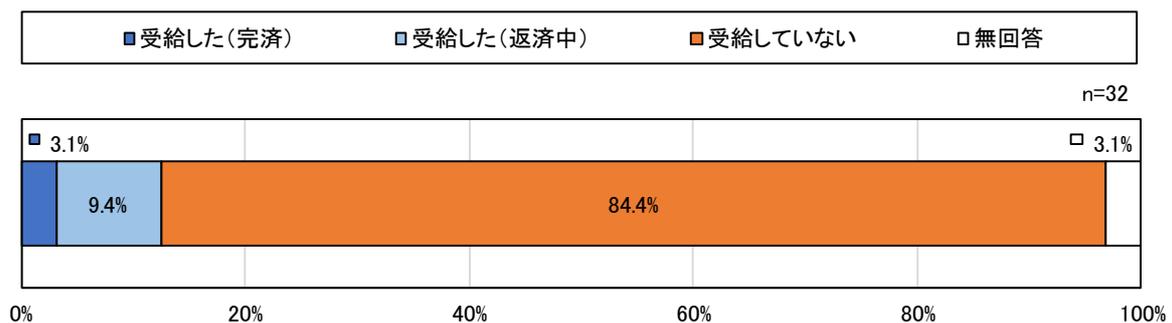


図 84 奨学金の受給有無

(シ) 住まい

住まいは、「自宅」が約4割で最も高く、次いで「民間賃貸住宅」「公営住宅」となっている。

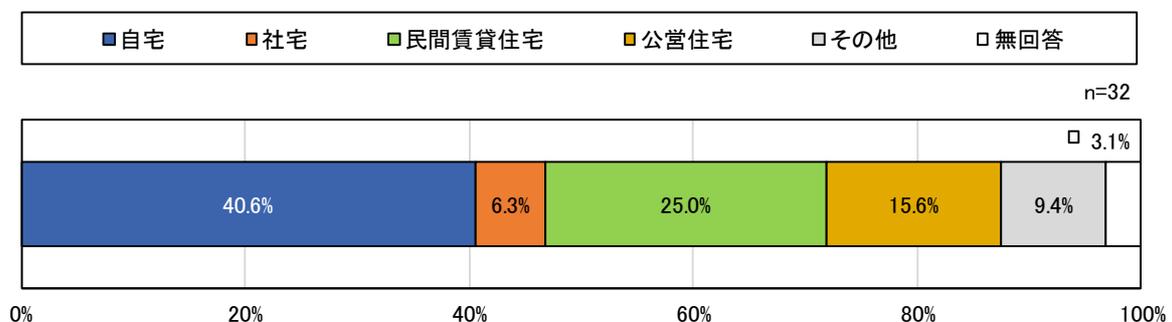


図 85 住まい

● 「その他」の記述内容

グループホーム、親の家

2 現在の収入・手当について

【問2】現在の収入（基本給）について満足していますか。

現在の収入（基本給）は、「普通」が約5割で最も高くなっている。

平成28年度調査と比較すると、「不満（「やや不満」と「とても不満」の合計）」の割合が約1割低くなっている。

性別でみると、男性よりも女性の方が「満足（「とても満足」と「やや満足」の合計）」の割合が約1割高くなっている。

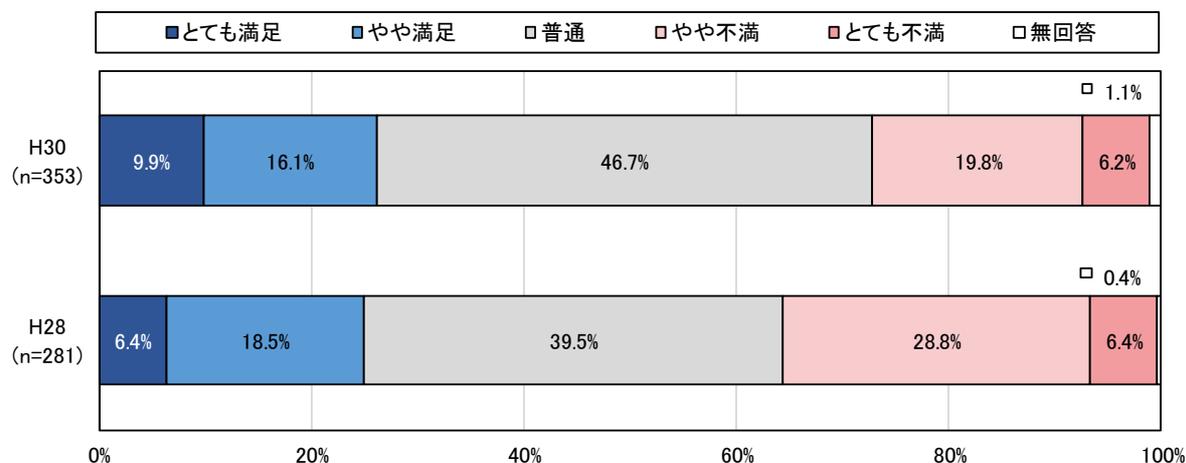


図 86 現在の収入（基本給）の満足度

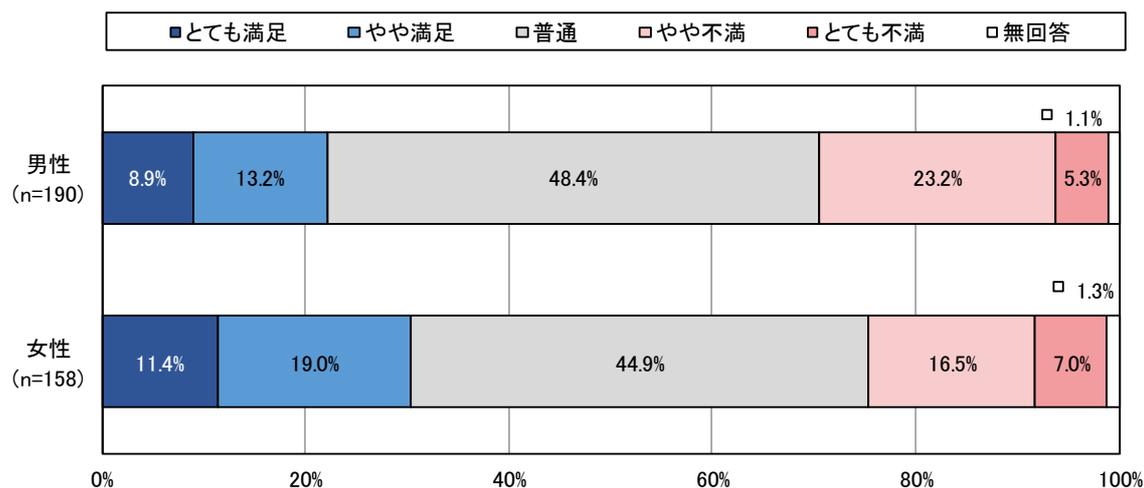


図 87 現在の収入（基本給）の満足度（性別）

【問3】各種手当は十分に支給されていると思いますか。

各種手当は十分に支給されていると思うかは、「はい」が約7割、「いいえ」が約2割となっている。

各種手当が十分に支給されていないと回答した方の理由は、「各種手当（燃料・賞与・住宅・通勤など）が不足している」ことが最も多くあげられている。そのほか「正社員との差がある」「男女で差がある」など雇用形態や性別による理由もみられた。

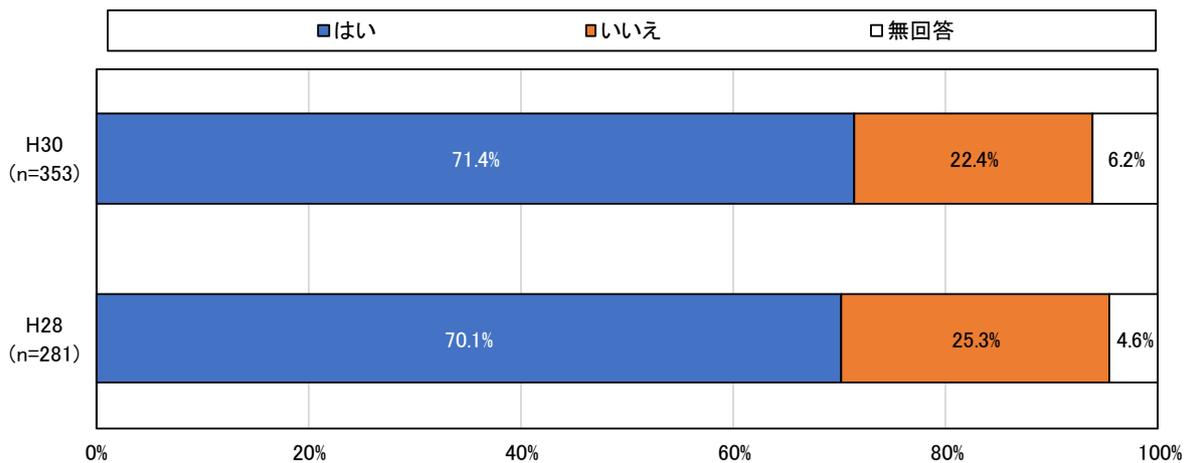


図 88 各種手当の支給

● 「いいえ」と回答した方の記述内容 ※ () 内は2件以上の回答者数

各種手当（燃料・賞与・住宅・通勤など）が不足しているため（45）、手当がないため（6）、正社員との差があるため（1）、男性と女性の差があるため（1）

3 スキルアップについて

【問4】どのようなスキルを向上させたい（身につけたい）と思いますか。 複

どのようなスキルを向上させたい（身につけたい）と思うかは、「専門的な技術・知識」が190票で最も多く、次いで「上司・同僚・部下などとのコミュニケーション能力」「接客など顧客対応能力となっている。」

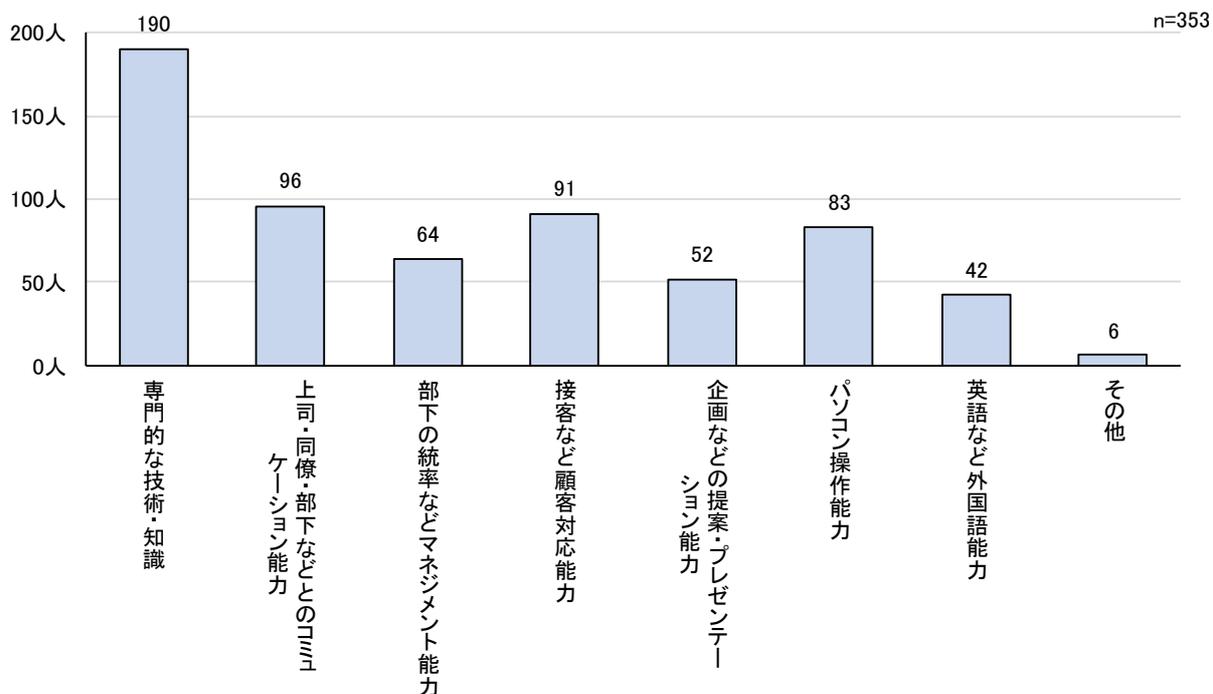


図 89 向上させたい（身につけたい）スキル 複

4 休業・休暇について

【問5】最近1年間の有給休暇の取得日数をお答えください。

最近1年間の有給休暇の取得日数は、10日未満が約6割を占めている。平成28年度調査と比べると、「10日以上取得者」が微増している。

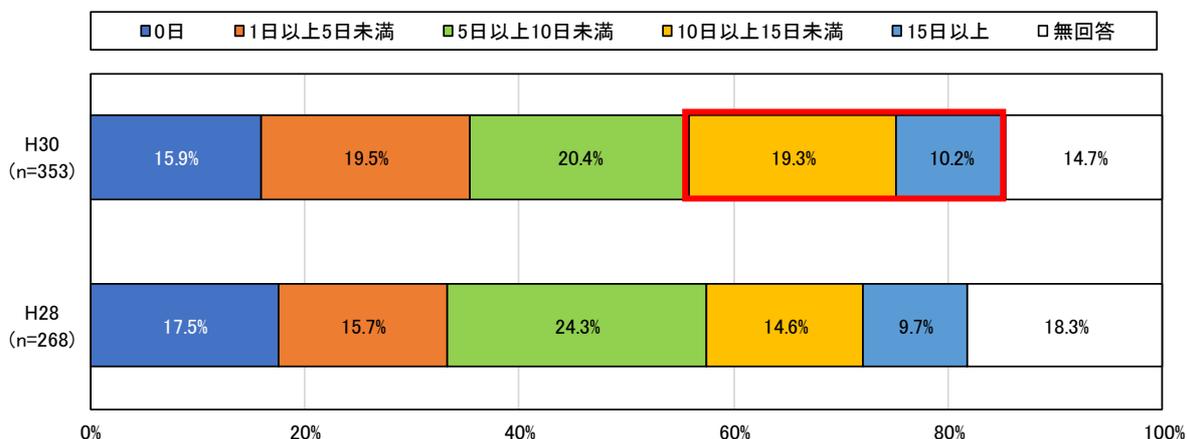


図 90 最近1年間の有給休暇の取得日数

※問6～問7は常用従業員とパート従業員の方が回答

【問6－（1）】育児休業制度を知っていますか。

【問6－（2）】育児休業を取得したいと思いますか。

育児休業制度は、「知っている」が約8割を占めており、取得意向がある（「取得したいと思う」と「今後、必要に応じて取得したいと思う」の合計）は約5割となっている。

性別でみると、女性は取得意向がある（「取得したいと思う」と「今後、必要に応じて取得したいと思う」の合計）が約5割、男性は約4割となっている。

年代別でみると、20代～40代は取得意向がある（「取得したいと思う」と「今後、必要に応じて取得したいと思う」の合計）が5割以上となっている。

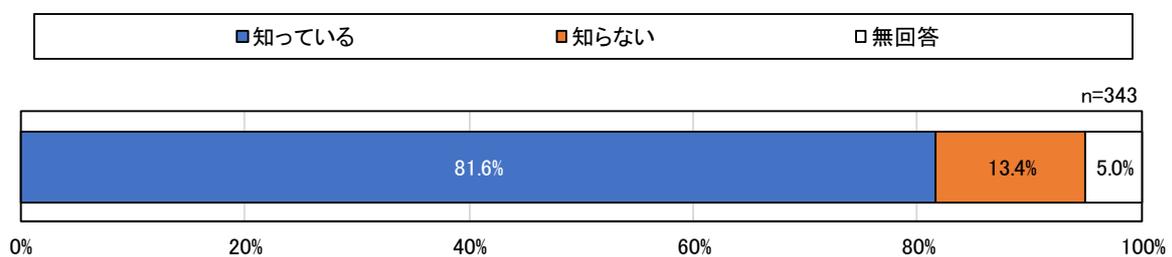


図 91 育児休業制度の認知度

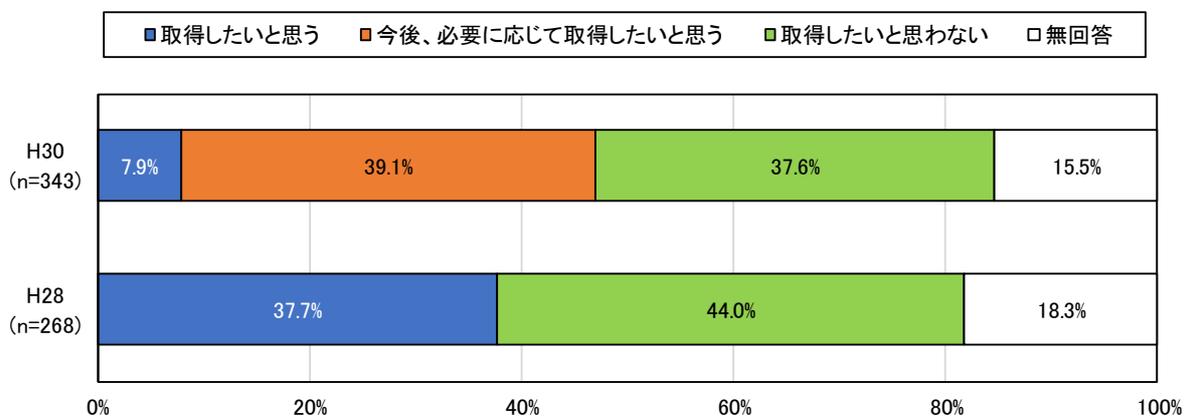


図 92 育児休業の取得意向

※平成28年度調査：選択項目「今後、必要に応じて取得したいと思う」なし

IV 従業員調査結果

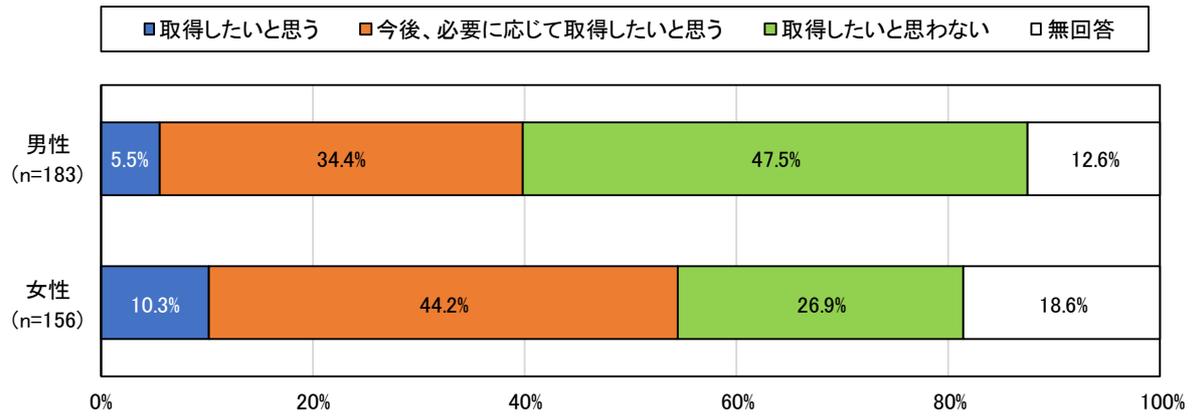


図 93 育児休業の取得意向（性別）

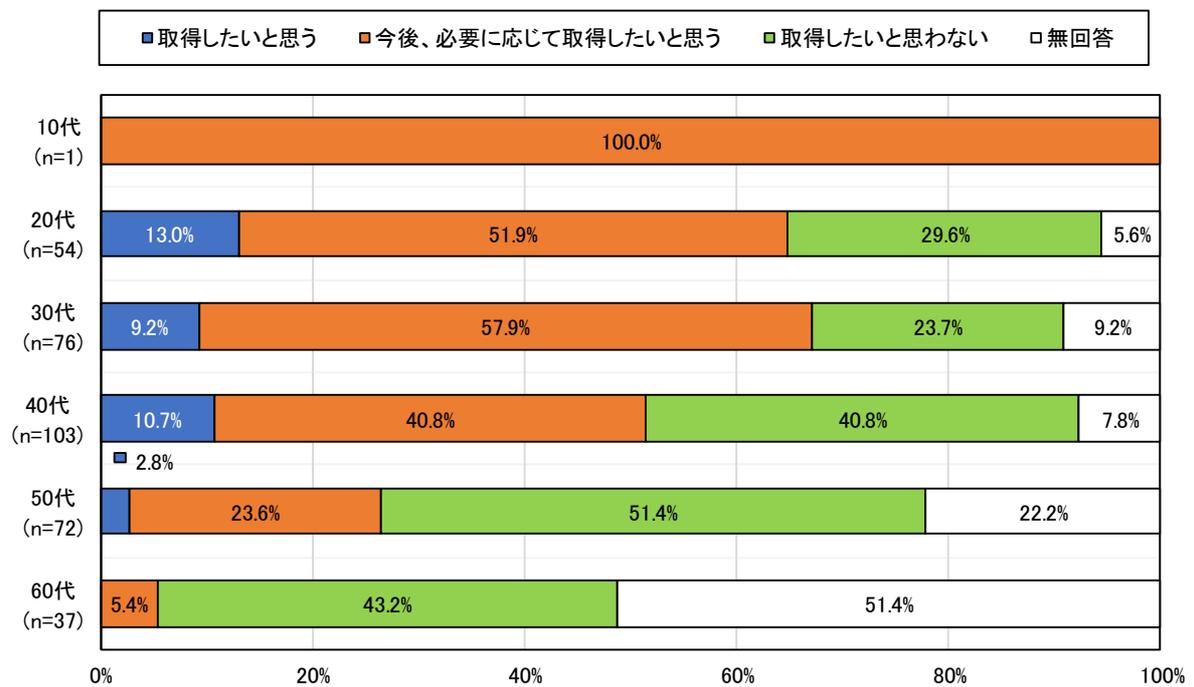


図 94 育児休業の取得意向（年代別）

※育児休業を取得した経験がある方が回答

【問6-(3)】育児休業を利用してよかったことはなんですか。複

育児休業を利用してよかったことは、「子育てに安心して取り組めた」が8票で最も多く、次いで「一時的に仕事から離れリフレッシュできた」「家族との時間を楽しめた」「子育ての楽しさが実感できた」となっている。

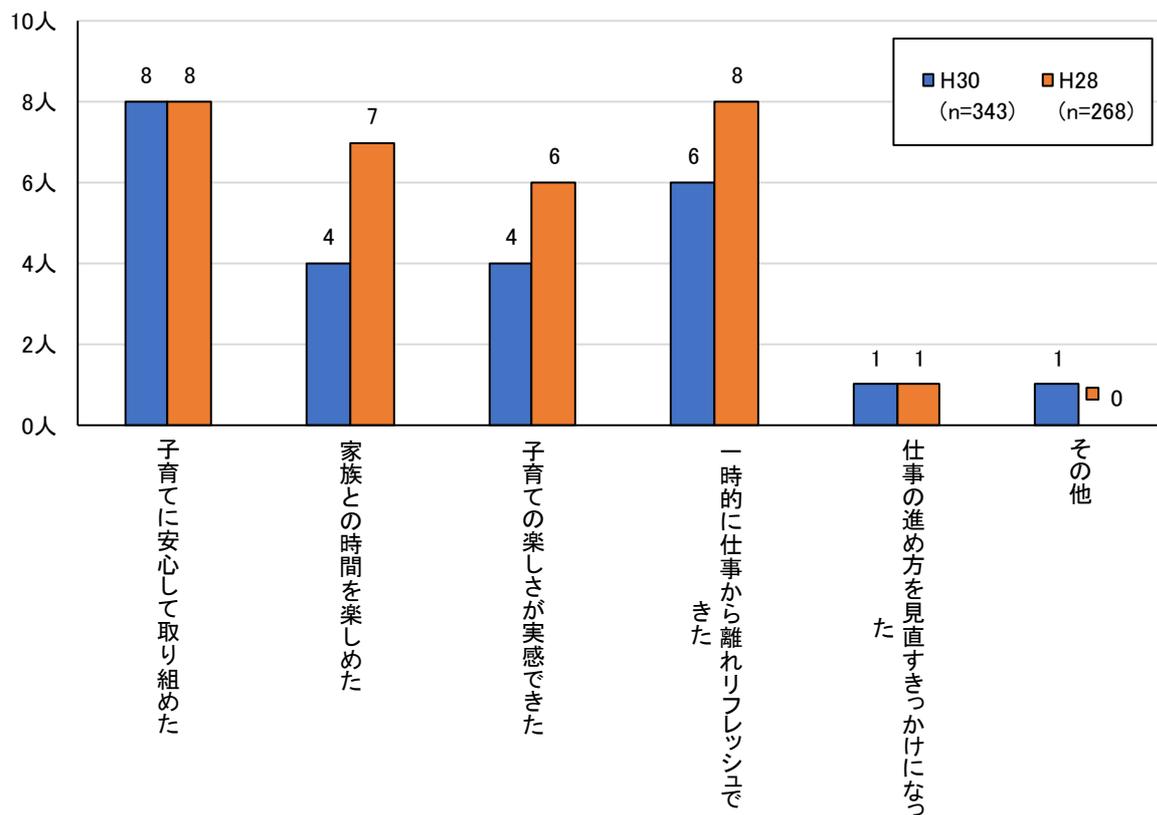


図 95 育児休業を利用してよかったこと複

●その他の記述内容

休業を取る年齢ではないが、若い方には取れ易い環境作りが必要だと思う。

※育児休業を取得しなかった経験がある方が回答

【問6－(4)】育児休業を利用出来なかった理由はどれですか。複

育児休業を利用できなかった理由は、「職場に迷惑をかける」が62票で最も多く、次いで「その他」「職場の上司や同僚への配慮」となっている。

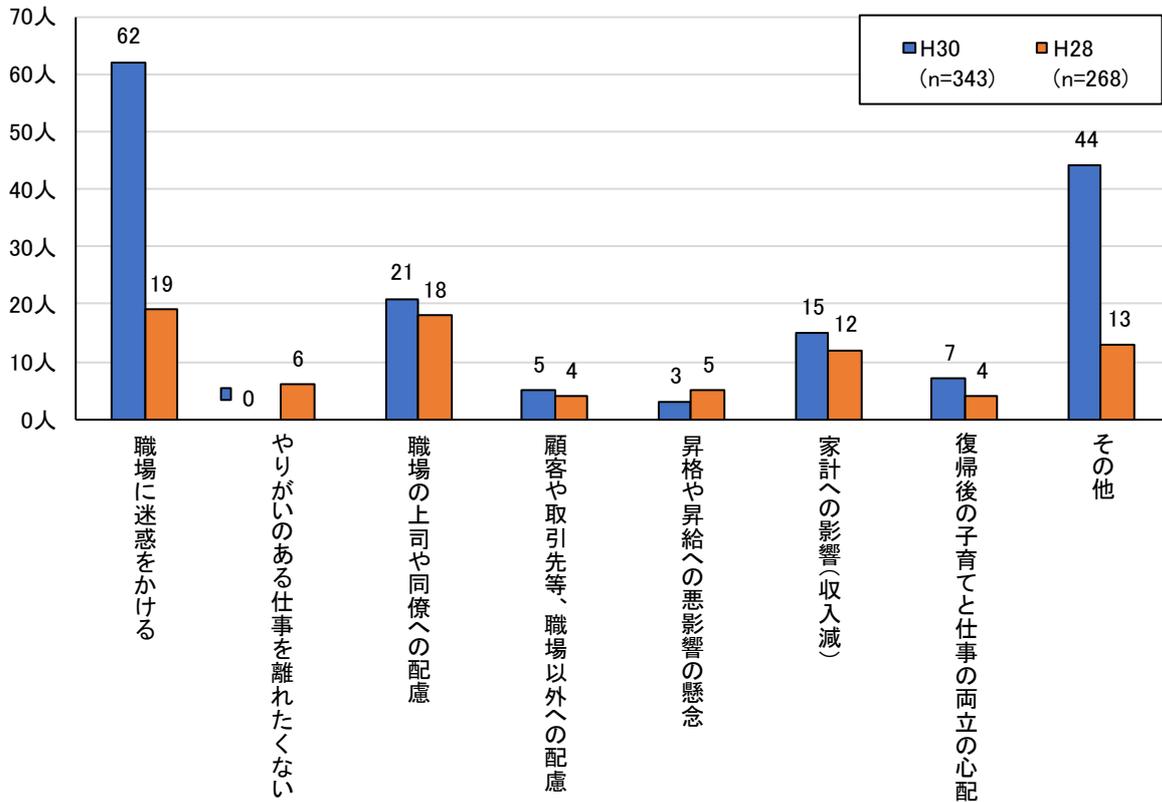


図 96 育児休業を利用できなかった理由複

●「その他」の記述内容 ※ () 内は2件以上の回答者数

必要なかった (17件)、制度が無かった (5)

【問7ー(1)】介護休業制度を知っていますか。

【問7ー(2)】介護休業を取得したいと思いますか。

介護休業制度を「知っている」が約5割となっている。平成28年度調査と比較すると、「知っている」が約1割増えている。

また、介護休業の「取得意向がある（「取得したいと思う」と「今後、必要に応じて取得したいと思う」の合計）が約8割を占めている。

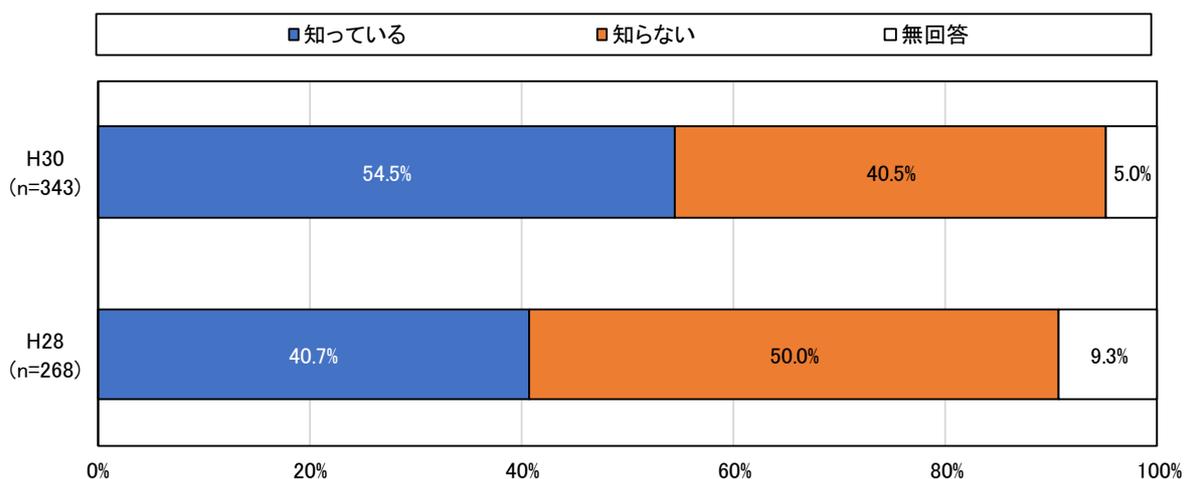


図 97 介護休業制度の認知度

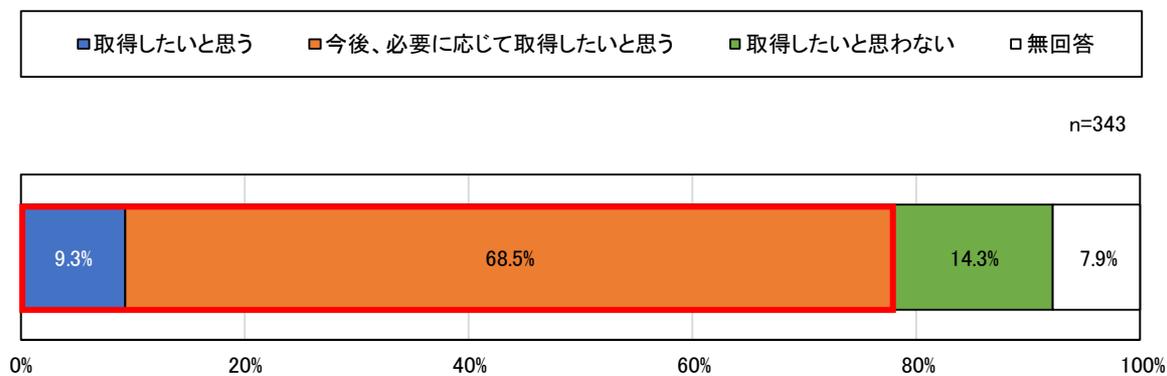


図 98 介護休業の取得意向

5 その他について

【問8】あなたが働いている職場は、女性にとって働きやすいと思いますか。男性の方につきましても、あなたから見て感じることをお答えください。

女性にとって働きやすい職場と思うかは、「普通」が約7割を占めている。
また、勤続年数が長くなるにつれ、「働きやすい」と回答した方が減少している。

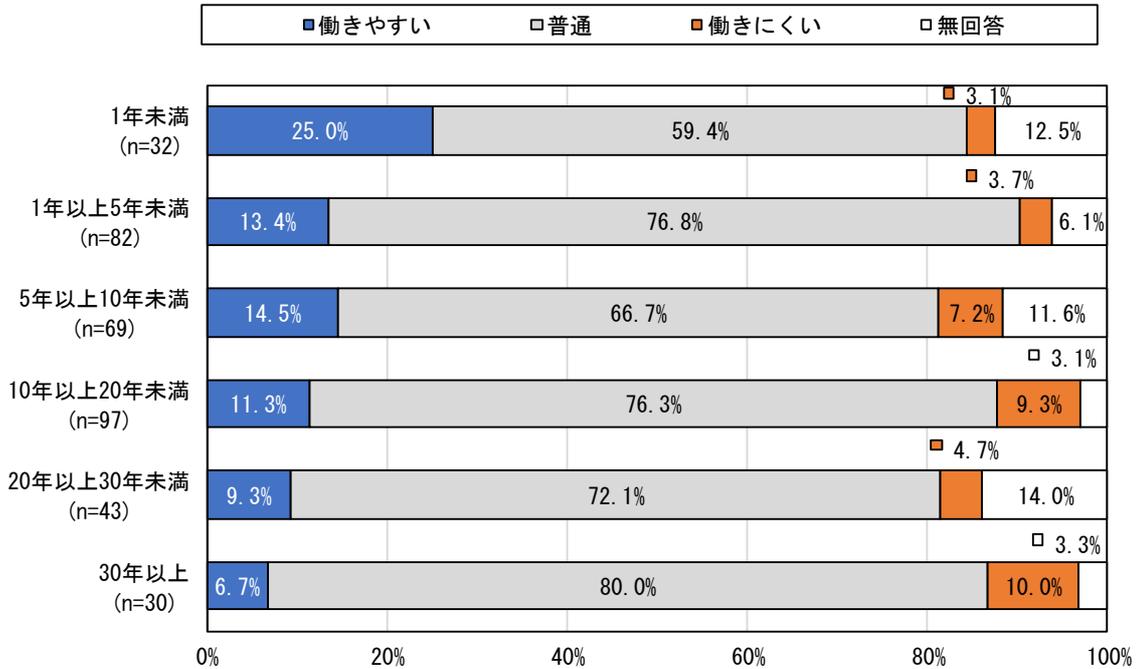
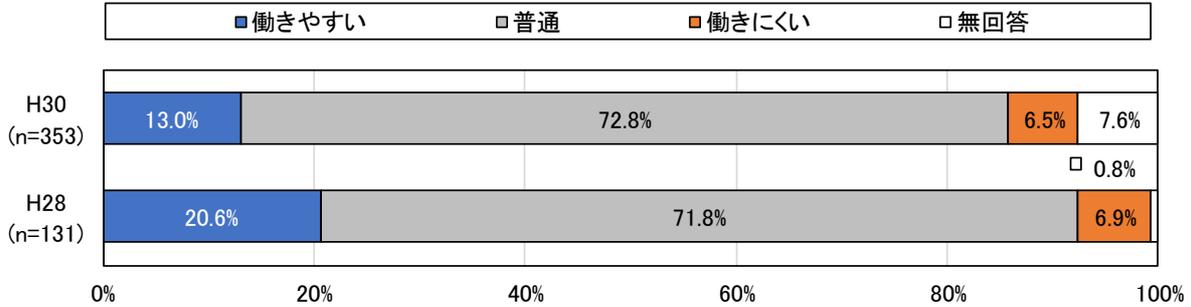


図 99 女性にとって働きやすい職場（上：全体、下：勤続年数別）

※平成 28 年度調査：「女性」のみに質問

●記述内容 ※（ ）内は 2 件以上の回答者数

回答項目	内容
働きやすい	人間関係が良好なため (20)、勤務日や勤務時間の融通がきくため (8) 女性がメインの職場であるため (4)、制度が整っているため (2)
働きにくい	力仕事の負担が大きい (4)、不公平感があるため (3) 制度が整っていないため (2)、勤務日や勤務時間の融通がきかないため 設備が不足しているため

【問9】あなたは、「職場」「家庭生活」「地域活動」の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

男女の地位は、「職場」「家庭生活」「地域活動」のいずれの分野においても「平等」が最も高くなっており、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」となっている。

分野別にみると、男性の方が優遇されていると回答した方の割合は、「職場」が最も高くなっている。

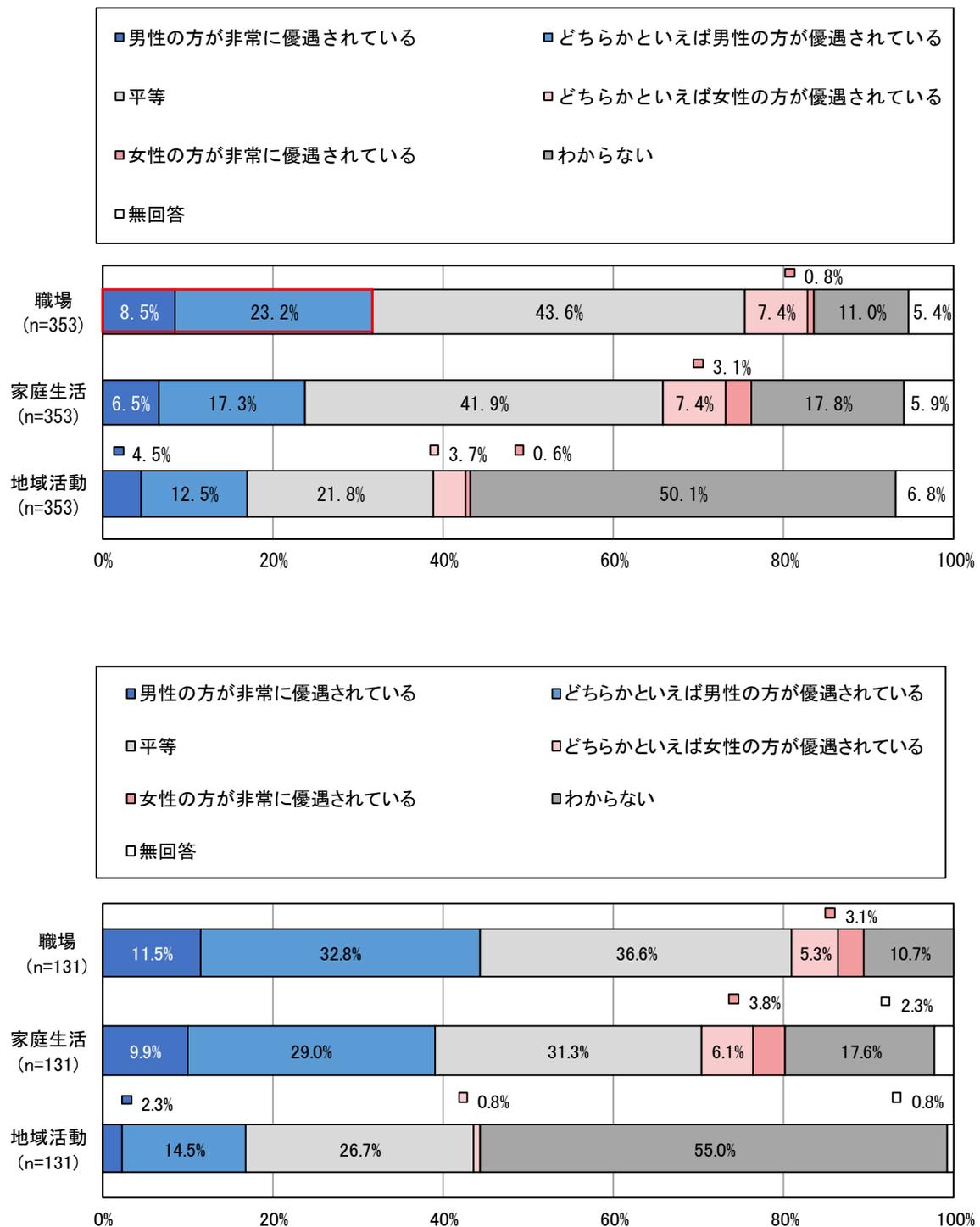


図 100 「職場」「家庭生活」「地域活動」における男女の地位（上：H30、下：H28）

※平成 28 年度調査：「女性」のみに質問

IV 従業員調査結果

【問10】日常における、「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の優先度について、どのように考えていますか。

日常における優先度について、希望は「仕事・家庭・個人」が2割以上で最も高く、次いで「仕事・家庭」「仕事・個人」となっている。

一方で現実には、「仕事」が約4割で最も高く、次いで「仕事・家庭」「仕事・個人」となっている。

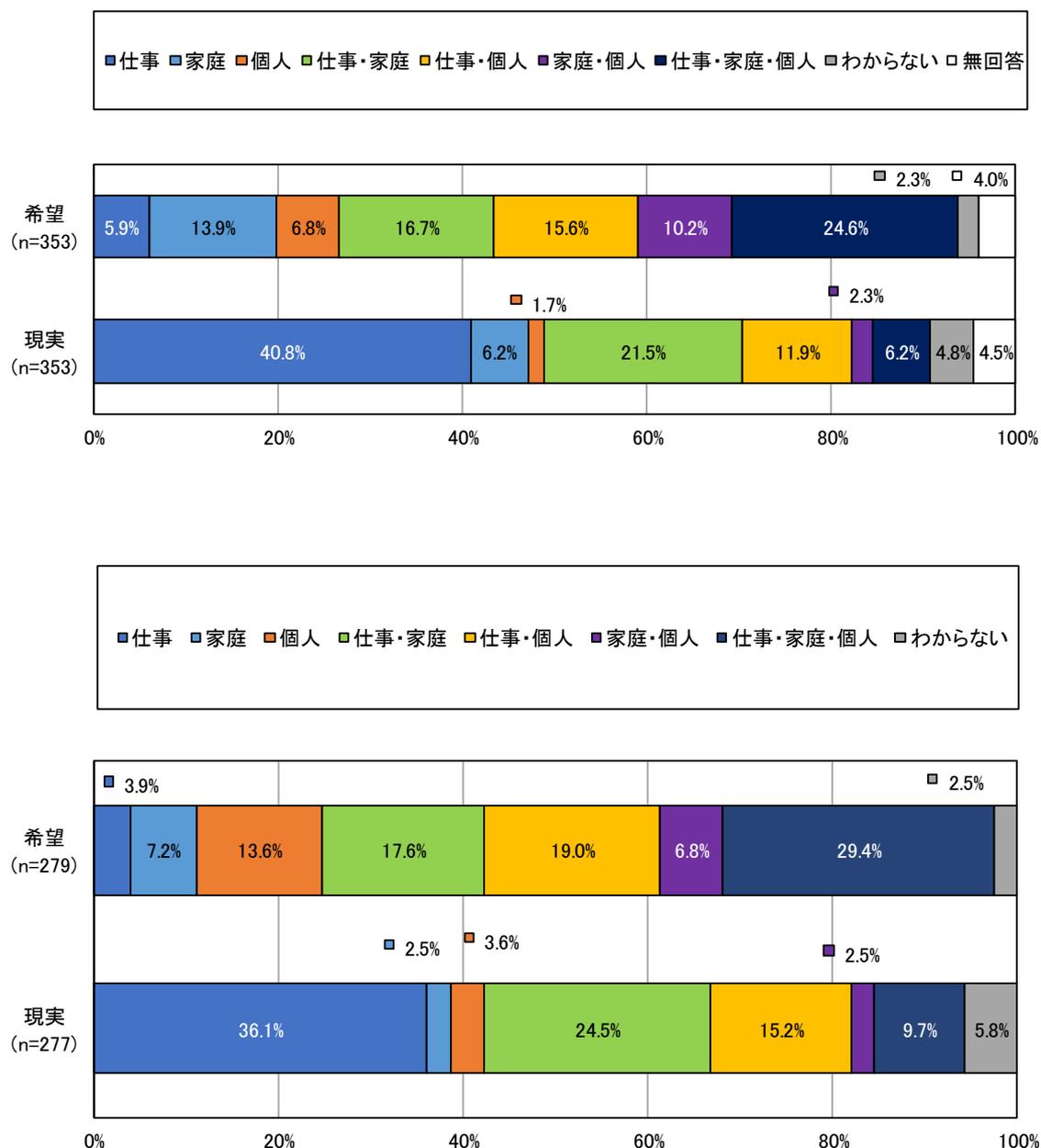


図 101 日常における「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の優先度（上：H30、下：H28）

※平成 28 年度調査：「無回答」の集計なし

【問 11】「仕事」「家庭生活」「個人の生活」「休養」の生活時間について、今後どのようにしたいと思いますか。

今後の生活時間について、「休養」「個人」は「長くしたい」が約5割を占め、「仕事」は「短くしたい」の回答割合が他の項目と比べて高くなっており、平成28年度調査と同様の結果となっている。

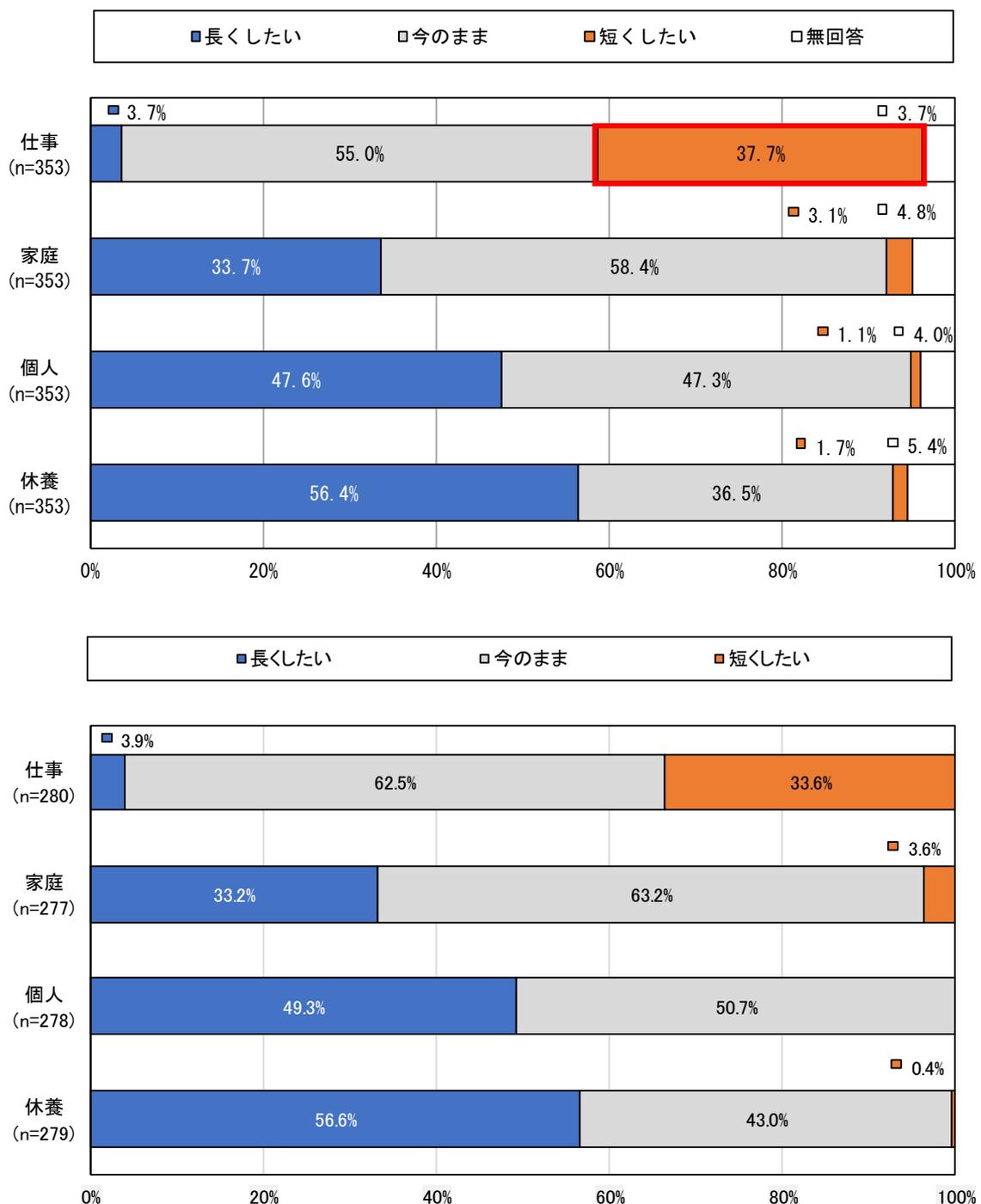


図 102 今後の生活時間の意向（上：H30、下：H28）

※平成28年度調査：「無回答」の集計なし

IV 従業員調査結果

【問 1 2】 栗山町若者移住促進助成制度を知っていますか。

栗山町若者移住促進助成制度を「知っている（「制度の内容を知っている」と「制度があることは知っているが、内容までは知らない」の合計）」は約 5 割で、そのうち「制度の内容を知っている」は約 1 割となっている。

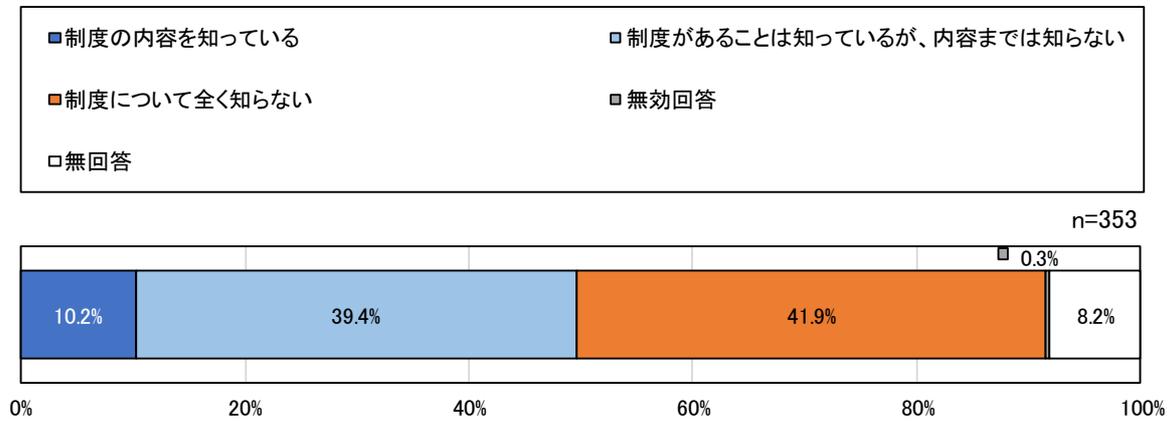


図 103 栗山町若者移住促進助成制度の認知状況